

天 界 新 知 識

鯨座に新しい超新星

米國パロマ山の F. Zwicky 氏は、去る1939年12月4日に、8吋シミト式望遠鏡で鯨座の一渦状星霧中に16等級の超新星を発見した。星霧は N. G. C. 321, 同 325, 同 327, 同 329 等の星霧と一群をなし、其の位置は、

赤経 $0^h 54^m$ 赤緯 $-5^\circ 20'$ (分點は1939年初)

で、太陽系からの距離は約7000000パーセク(即ち30000000光年)である。超新星は此の星霧の中心より西北に約 $16''$ の所にある。報告によれば、此の超新星は、去る11月2日には17.5等級以下であつたが、11月20日頃には15等級となつたらしい。12月4日には前記の如く16等級となり、同14日には約16.5等級に下つた。

一 角 獸 座 の 新 星

昨1939年12月17日、獨國ベルゲドルフ天文臺の Wachmann 氏は一角獸座に一つの新星を発見した。光度は8.55等級と言はれてゐた。位置は

赤経 $6^h 40^m 45.72$ 赤緯 $-1^\circ 57' 32.2$ (1940年初の分點)

で、スペクトル中には輝線が多く現はれてゐる。

其の後、各方面からの報告を綜合すると、此の星は1919年から1935年までの寫眞には16等級であつたと、ホフマイスタ氏が報告してゐる。又、ソ聯の Ku. karkin 氏は、去る11月20日にモスコウ天文臺で K. A. Vorochiloff 氏が観測した所では8.5級であつたと報じてゐる。しかし、年末と共に、星の光度は幾らか下降し、9等級となり、小澤氏によれば10等級となつた由。(急報412, 415, 其の他)

世界一の直線鐵道線路

シドニからの近着報によれば、南濠州から西濠州への唯一の陸上交通機關として最近完成された鐵道は、砂漠の中を行くので、途中の1100マイル(1800キロ、即ち450里)間には一筋の流水も無く、所々に機關車用水のために井戸を掘つた所がある。又、特に其のうち300マイル(500キロ、即ち120里)は眞に些かのカーブも無い一直線の鐵道線路であつて、濠州の一つの名物であるといふ。

變星は總計8254個

最近にドイツのベルリン大學天文臺から到着した H. Schneller 氏編輯の變星表(1940年度) Katalog und Ephemeriden veränderlicher Sterne によれば、最近の第37回變星命名表に發表された新變星88ケを加へて、今知られてゐる變星全部の總計は8254ケである。但し、次ぎの變星は一覽表から取り消された: VV And, Y Aql, FQ Ara (=RV Ara), HV Ara (=AN Pav), W Boo, X Boo, S CVn, W Car, R Cep, VY Cep, VY Cep, T Cyg, RX Cyg, CP Cyg, R Eri, S Eri, VY Gem, V Her, Y Her, T Lac, T Leo, S Mon, HV Oph, UZ Peg, R Pup, S Pup, T Pup, AX Pup, (=VZ CMa), S Ret, V Sgr, AF Sgr, V Sco, CC Sct, U Tau, RS Tau, T TrA, R Vel.

この變星表は、以前には Prager 氏が編輯してゐたものであるが、同氏が米國ハーバード天文臺へ移つたので、Schneller 氏が之れを引き受けたものであつて、内容は

第1表: 各星座別で變星の總一覽表

第2表: 週期100日以下の變星の要素表

第3表: 蝕變星の要素表

第4表: 超新星の表

第5表: 赤經の順に配列した變星表

A: 赤緯 -23° 以北のもの

B: 赤緯 -23° 以南のもの

個々の星に對しては下の如き種別が記されてゐる:

長週期星, Mira 型, 不規則星, U Gem 型, Z Cam 型, R CrB 型, δ Cep 型, ζ Gem 型, RR Lyr 型, RRa 型, RRb 型, RRc 型, RV Tau 型, 楕圓體變星, 蝕變星, アルゴル種, β Lyr 型, W UMa 型, 新星, 超新星, 半不規則星, 短週期星, RS Cnc 型, μ Cep 型, XX Oph 型.

尚ほ、上記の第4表は、A. G. 協會の決議により、今1940年度より始めて掲載されることになつたものである。(山本)

ベルテヤ彗星 1936a の軌道決定

南米アルゼンチン國コルドバ天文臺の Jorge Bobone 氏は、近年、1936a 彗星の決定的軌道要素を算出することに従事し、全世界からの觀測報告を綜合しつゝあつたが、さき頃、同天文臺の Resultados 第36卷第1部として發表した。勿論、之れは金星、地球(及び月)、火星、木星、土星の攝動作用を算入したもので、材料として用ゐた約600ケの觀測報告の中には花山天文臺の稻葉、

柴田兩氏の觀測も含まれてゐる。最終結果は

近日點通過期日,	$T = 1936\text{年七月}8.955071 \pm 0.000742$	U.T.
〃 引數,	$\omega = 148^\circ 28' 10.40 \pm 1.84$	} 分點 1936.0
昇交點の黃經,	$\Omega = 134 \quad 02 \quad 53.51 \pm 1.01$	
軌道面の傾斜,	$i = 78 \quad 33 \quad 02.99 \pm 2.02$	
離心率,	$e = 0.9917595 \pm 0.0000467$	
近日點距離,	$q = 1.0998695 \pm 0.0000034$	單位
公轉週期,	$P = 1542\text{年} \pm 13\text{年}$	
接觸元期,	$E = 1936\text{年五月}23.0$	T.U.

“さそり・センタウル星群”は解消

五六十年前から恒星の固有運動の並行するものを一括して“星群”と呼ぶこととなつた。其の中でも、大熊星群、プレヤデス星群、ヒヤデス星群、ペルセウス星群、オリオン星群、プレセペ星群、髪星群などは有名なものである。“さそり・センタウル星群”といふものも、1914年に和蘭のカプタイン博士が發見した群で、大體 B 型の肉眼星130ヶばかりを含み、南天の、アルゴ座から蝸座に至る銀河附近の輝星から出来てゐる。此の星群の運動や、其の他、種々の研究は Plummer, Rasmuson, Plaskett, Pearce, Bertaud, Nisoli 諸氏によつて行はれたが、最近にも英國グラスゴ大學天文臺長 W. M. Smart 氏は權威ある研究を發表した。下表は此等諸研究の一覽表である：

研究者	(赤經)向點(赤緯)	速度(秒速)	K 項
J. C. Kapteyn	94.6 -42°	18.3 ± 0.9	$+4.3 \pm 0.5$
H. C. Plummer	96. -39	14.8	
Rasmuson	99.1 ± 11.5 -45.6 ± 8.2	18.6 ± 2.4	
Plaskett, Pearce	83.6 -22.9	15.0 ± 1.0	$+8.3 \pm 0.5$
Bertaud	96.8 ± 2.1 -40.3 ± 4.7		
Nisoli, Gérard	86.5 ± 0.9 -27.5 ± 3.8		
W. M. Smart	91.2 ± 1.3 -36.8 ± 1.7	18.8 ± 0.4	$+5.2 \pm 0.7$

此の研究の結果、Smart 氏は、この“さそり・センタウル星群”の運動の方向が、我が太陽系の運動の方向と正反對であること、又、速度も太陽運動と殆んど同一であることを見て、つまり、吾人が“さそり・センタウル星群”と考へてゐるものは、實は太陽系がヘルクレス座の方へ運動してゐるために起された錯覺であつて、實際には、こんな運動星群は無いのであるといふ意見を吐露するに至つた。即ち、此の B 星たちは、事實は宇宙に靜止してゐる一團の星々であると考へれば良いのである。[M.N. 100²⁰]

★ 變 星 課 (1940年3月分)

本月中に受取つた報告の概略だけを示すと、次の通りである。課長木邊氏が靜養中で、觀測の無いのは淋しい。名古屋の小澤氏は相變らずの精勵、感服の外はない。猶ほ沓掛氏は病氣で缺測の由、回復を祈ります。昨年後半の變光星報告を近日天界紙上に發表する筈。報告洩れの方は、第一部は倉敷天文臺へ、第二部は木邊氏宛至急報告下さい。

氏 名	1940年3月					
	第 一 部		第 二 部		計	
	星數	目測數	星數	目測數	星數	目測數
木 邊 成 鷹	1	1			1	1
小 澤 喜 一	1	3	20	299	21	302
岡 林 滋 樹	8	17	5	13		
太 田 彬	3	17			3	17
津 留 滋 雄	6	16			6	16
山 田 達 雄	5	22			5	22

但し、上表のものは、津留氏は2~3月分、太田氏は2月分である。(岡林記)

ド イ ツ の 英 斷

ドイツ政府は、去る二月29日、運勢判斷、その他、世事の豫言に類する記事の付いた曆を、全部沒收する旨發布した。

其の理由は、國民が、愚かなる迷信に惑はされて、精神の平靜を失ふといふにあり、殊に外國製の星占ひは、陰惨な豫言を含んだものが多く、最近ドイツからニューヨークに來た人の談によると、星占ひは、目下、ドイツで非常な流行をし、一部では、ヒットラー總統がポーランド征服を決意したのは、ベルヒテスガールデン山莊の窓からアルプスの空に輝く星を望んで得た判斷に基づくものだと噂もある位である。(讀賣)

吾が國にも此の種類の迷信を記載し、或は之れ等を流布する人は可なり多いのであるが、有識者は、決して此んなものに迷はされないやうに心掛けねばならぬ。殊に、吾が國は、支那の陰陽五行説から來る迷信が非常に多く、旅行、婚姻、建築、運勢などについて、迷つてゐる人が非常に多い。都市の中にある大きいビルデングが、屋上に、變な宮を祭つたり、鳥居を建てたりしてゐるのは誠に見苦しい。